

教養部の英語教育

近 藤 勝 志

(平成18年度～平成19年度 教養部長)

平成3年の大学設置基準の大綱化により、教養教育の理念や教養部の存在意義が問い直されることになりました。こうした流れを受けて、愛知学院大学の教養教育も大きく改革され、平成4年12月には、以下の4点の基本方針からなる「教養教育の理念」がまとめられました。

- (1)科目の自由な選択に基づく主体的学習能力の育成
- (2)激動する社会の変化に対処する高度な洞察力・判断力の養成
- (3)緻密な学生教育を基盤にした着実・堅実な思考の練成
- (4)社会的協調性を養い、思いやりのある人間性の涵養を目的とした教養教育

教養部英語教室は平成6年のカリキュラム改革の時、上述の「教養教育の理念」の(1)「科目の自由な選択に基づく主体的学習能力の育成」に則り、全学共通の英語コア科目の教育において、コミュニケーション能力の養成に重点を移しました。具体的には、学生の希望に基づいた習熟度別クラス（基礎、通常及び中級）の導入、外国人教師の増員（平成23年現在専任7名、非常勤講師7名）、教師中心から学生中心の活動型授業への移行などです。この改革で特筆に値することは、学生が学力・学習意欲に応じたクラスを自主的に選択できることと、全学生が1年次に英語 Ia・IIa において必ず外国人教師によるオーラル・イングリッシュの授業を受けることです。授業が1シメスターになるか2シメスターになるかは、習熟度別に編成された所属クラスのグレードによります。なお、2年進級時には申し出により学力に応じたグレードへの変更が可能になる制度設計になっています。

カリキュラム改革の時、文系学部（除く：総合政策学部、文学部グローバル英語学科）では英語コア科目は諸般の事情を考慮して従来の4科目8単位から3科目6単位に削減されました（平成6年当時の学期は通年制でした）。その折、英語教室はコア科目の削減対策としてコア科

目の発展科目である英語エレクトィブ科目の充実を図りました。ここで英語エレクトィブ科目について一言触れておきたいと思います。英語教室では、学生のニーズに対応するべく開講科目、授業内容及び開講時間については毎年時間割編成時にチェックを続けています。平成23年度に関しては、ハリウッド映画を用いた文化的な深さを持った英語クラス（メディア英語）に学生の人気が集中しているようです。なお、学生の英語力を測定するために平成12年から主として英語エレクトィブ科目の受講生を対象にして TOEIC（LR）団体テストを実施してきました。実施目的は学生の英語力の客観的なデータを継続的に入手することで、英語学習指導の効果を高めることにあります。

その後幾多の変遷を経ましたが、平成23年度の英語開講科目及びクラス編成の内訳は以下の通りです。

1. 英語必修科目と選択科目

①商学部、経営学部、法学部、文学部、心身科学部心理学科

〔英語必修科目〕（単位数1）

英語 Ia・IIa：日本人教師による Listening と外国人教師による Oral Communication（学期毎に担当教師が交替）（1年次開講）

英語 Ib・IIb：Reading（1年次開講）

英語 Ic・IIc：Writing を中心とした総合英語（2年次開講）

〔英語選択科目〕（単位数1）

〈1年次以降開講〉

英会話 I・II

メディア英語 I・II

実践英語 I・II

英語表現法 I・II

英語読解法 I・II

〈2年次以降開講〉

英会話 III・IV

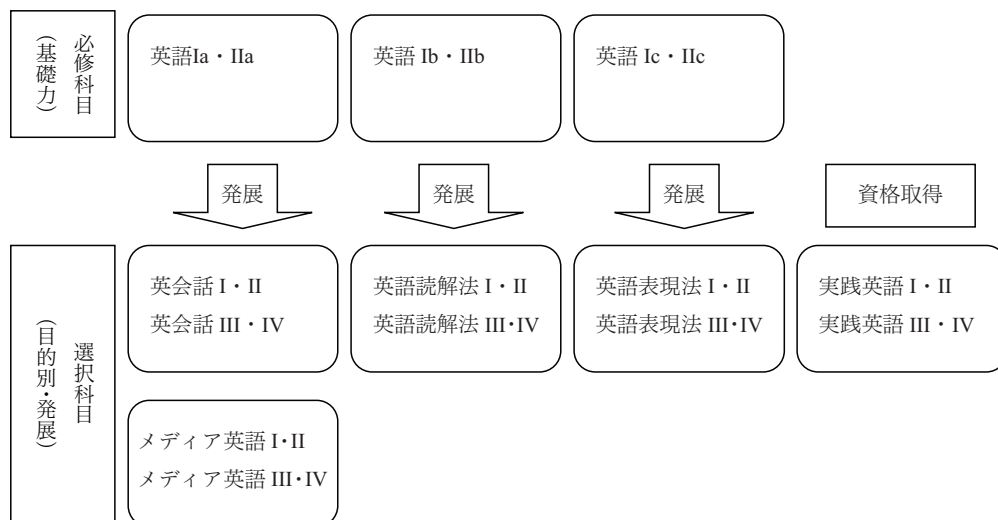
メディア英語 III・IV

実践英語 III・IV

英語表現法 III・IV

英語読解法 III・IV

〔教育課程のイメージ〕



②歯学部

〔英語必修科目〕(単位数1；全科目1年次開講)

英語Ia・IIa：Reading

英語Ib・IIb：Listening

英会話I・II：外国人教師による Oral Communication

③薬学部

〔英語必修科目〕(単位数1；全科目1年次開講)

英語Ia・IIa：Reading

英語Ib・IIb：Listening

④心身科学部健康科学科

〔英語必修科目〕(単位数1；全科目1年次開講)

英語Ia・IIa：外国人教師による Oral Communication

英語Ib・IIb：Reading

英語Ic・IIc：Writing

⑤心身科学部健康栄養学科 (単位数1；全科目1年次開講)

〔英語必修科目〕（単位数1）

英語 Ia・IIa：外国人教師による Oral Communication

英語 Ib・IIb：Reading

〔英語選択科目〕（単位数1；1年次開講）

英語 Ic・IIc：Writing

2. 習熟度別クラス編成

下記の学部・学科では、学生本人の申告に基づいた習熟度別クラス編成を実施しております。

〔クラス編成一覧〕

学部（学科）	基礎コース	通常コース	中級コース
商学部・経営学部・法学部	EA～EF	EG～EJ	EK
文学部	EA～EF	EG～EK	EL～EM
心身科学部（心理学科・健康科学科）	EA～EB	EC～ED	EF

※心身科学部健康栄養学科では習熟度別クラス編成を実施していない。

※クラス編成作業は「英語コース選択カード」に基づいて行われます。作業結果によっては、基礎コースと通常コースとの境界のクラスに変更の可能性があります。

〔未修得者クラス〕

未修得者クラスは、商学部・経営学部・法学部・文学部・心身科学部心理学科の学生のうち、開講学年で単位を修得できなかった学生が履修するクラスです。

参考：平成23年度未修得者クラス開講授業数一覧

春学期		秋学期	
科目名	開講コマ数（開講時間）	科目名	開講コマ数（開講時間）
英語 Ia	4（月2、月3、月5、火2）	英語 Ia	1（火5）
英語 IIa	4（火5、水5×2、金4）	英語 IIa	4（月2、月3、月5、火2）
英語 Ib	5（木2、木3、木5、金1、金2）	英語 Ib	1（木5）
英語 IIb	2（金1×2）	英語 IIb	4（木2、木3、金1、金2）
英語 Ic	4（火3、火4、水3、木4）	英語 Ic	1（木3）
英語 IIc	1（木3）	英語 IIc	4（火3、火4、水3、木4）
計	20	計	15

平成6年から導入した習熟度別クラスは、学生の希望に基づいて編成されるため、クラス内の学力差の是正には有効な方法と思われます。しかし学生の学習意欲と英語力とは必ずしも一致しないことも否めない事実です。そこで英語教室は申し出に基づく習熟度別クラス編成が内包する問題の解決策も兼ねて平成22年度から「愛知学院大学英語力評価テスト」(AGUTEA)を作成し全学科の一部のクラスで実施しました。テスト内容はTOEICテストと同形式でリスニング、語彙・文法、読解の3セクションから構成されています。実施目的は学生の英語力の定観測と1年間の英語力の進捗状況を把握するためです。

平成23年から薬学部の要請に応じる形で、AGUTEAを薬学部生に対しプレイスメントテストとして実施し、スコア順に4クラスにクラス分けをしました。申し出に基づく習熟度別クラス編成とより客観的なデータに基づく習熟度別クラス編成との教育効果を比較するためのデータを現在収集しています。

つぎはハード面の充実です。本学は平成16、17年にかけて教養部専用の外国語視聴覚教室(各48席)及び自習室(20席)にLキューブ StageEZを導入しました。Lキューブ StageEZは高機能ながらユーザーフレンドリーなシステムです(平成23年度機器一新)。

このシステムはグレード制の導入にもかかわらず、ある程度画一的な授業の進め方が求められるコア科目にも、また個人差が大きい個人学習が重視されるエレクトィブ科目にも対応できます。さらにeラーニングの活用が可能であるばかりでなく「Native World」とかTOEIC関連の教材ソフトも豊富に用意されています。

最後にiPadの試験的利用についてひとこと触れておきたいと思います。英語教室では昨今のITC技術の革新にも柔軟な対応ができるように様々な方策を試みています。その一つが平成21年から始まった産学協同研究プロジェクトとしてのタブレット端末を使用した授業の展開です。タブレット端末を使用した授業では従来の授業では展開できなかった様々な可能性を試すことができます。現時点で指摘できることは、一定の学生数を対象として客観的なデータを得ることで、現状の英語教育の長所と短所を正確に把握することができるようになったことです。詳細については愛知学院大学『語研紀要』(第35巻第1号 通巻36号)に掲載の「タブレット端末を用いた語学教育の現状と問題」(佐々木 真教養部教授)をご参照下さい。

なお、本文中の図表については鷲嶽正道准教授作成の資料を使用しました。